

三笠ジオパーク構想～大地の遺産と文明との共生～

Mikasa Coalfield Geopark Plan: Relationship between the history and geological background

栗原 憲一^{1*}, 新居 忠浩²

KURIHARA, Ken'ichi^{1*}, NII, Tadahiro²

¹ 三笠市立博物館, ² 三笠市役所企画経済部企画振興課

¹Mikasa City Museum, ²Promotion Policy Division, Mikasa City Office

北海道中央部に位置する三笠市は、札幌市や千歳市など主要都市から車で1時間圏内に位置するのにもかかわらず、自然や資源が豊富な地域である。当市の人口は、現在約1万人程度であるが、かつては炭鉱街として栄え、昭和30年代には6万人を越えていた。

三笠市は、明治元年に約5,000万年前の古第三系石狩層群から良質な石炭が発見されたことを皮切りに、まちが開拓された歴史的背景がある。また、約1億年前の白亜系蝦夷層群からは、アンモナイトを始めとする保存良好な生物化石が豊富に産出することから、明治後半以降、白亜紀における生物進化や古環境などに関する研究拠点地域にもなっている。

このように、当市は地質学的特徴とまちの歴史とが密接に関わっていることから、ジオパークに最適な地域であると考えている。

本発表では平成25年度の日本ジオパーク登録を目指して、三笠市の地質学的特徴、自然、歴史などについて解説しながら、三笠ジオパーク構想の紹介をしたい。

1 エリア

三笠市の行政区域全体を三笠ジオパーク構想のエリアと考えている。面積は302.64km²、そのうち森林面積は258.15km²であり、エリアの約85%は森林である。

2 主題テーマ

三笠市は明治元年の石炭の発見を契機にまちが開拓され、現在でも空知集治監（現在の刑務所に相当する施設）や炭鉱遺産群など多くの石炭に関係する資料や建造物、そして文化が残されている（炭鉱遺産群やその文化のお祭り、唄などの文化は北海道遺産に登録されている）。

そこで、三笠ジオパーク構想の主題テーマとしては、石炭を中心としたストーリーを展開し、まちの地質学的特徴や歴史との関わりについて語る「大地の遺産と文明との共生」を考えている。

3 これまでの実績

当市には、昭和54年に博物館法の指定を受けた総合博物館・三笠市立博物館が設置されており、地域から特徴的に産出するアンモナイトなどの化石資料や集治監・炭鉱などに関する歴史資料が保存・展示されている。近年では、地域の特徴を普及するための様々な学習行事や体験行事、特別展示等を積極的に展開している。

三笠鉄道記念館（三笠鉄道村内）では、明治15年に石炭の運搬を目的に敷設された北海道で初の鉄道・幌内鉄道に関する歴史資料などが保存され、三笠の中核をなす観光施設として、鉄道にまつわる様々な観光イベント等を実施している。

学校教育では、当市の独自政策である小中一貫教育を実施しており、その中では、地域の特徴（例えば、化石や農業）を学ぶ「地域科」と呼ばれる授業を展開しており、郷土愛を育成するための事業を行っている。

学術面では、博物館を中心に地質学や古生物学に関する国際会議の開催や巡検の協力を長年にわたり継続的に行っており、その功績が認められ2011年には日本古生物学会から、貢献賞を授与されている。

キーワード: 三笠市, 石炭, 炭鉱, 化石, ジオパーク

Keywords: City of Mikasa, coal, coal mines, fossils, Geopark